



相手に伝わる話し方のポイントについて集計することで、
クラス全体で課題を共有し、共通の課題の克服方法を考える。

小学校第4学年 国語「調べて分かったことを、相手に伝わるように話そう」

■単元の目標

- (1) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知識及び技能) (1)イ
- (2) 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思考力、判断力、表現力等) A(1)ア
- (3) 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) A(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

■単元の概要

普段の生活の中で疑問に思うことや調べてみたいことについてグループで調べ、その結果を分かりやすく伝えるために、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して、クラスみんなに発表する。

■単元の指導計画（9時間）

- ①学習の見通しをもち、調べる事柄を決める。
- ②グループのテーマに沿って調べる方法を考え、準備をする。
- ③④調べた結果を整理して、発表する内容を決めたり、発表用資料を作成したりする。
- ⑤相手に伝わる話し方のポイントについて考える。
- ⑥相手に伝わる話し方のポイントを意識しながら、グループで発表の練習をする。
- ⑦発表の練習の様子を撮影した動画を視聴し、クラスで課題を共有して、よりよい話し方の工夫を考える。その後、グループで再度発表の練習をする。
- ⑧発表会を行い、その様子を撮影した動画を視聴し、自分の話し方について振り返ったり、友達の話し方のよいところを伝え合ったりする。
- ⑨学習を振り返り、相手に伝わる話し方をまとめる。

■主な時間の概要

- アンケートの集計結果やインタビュー動画などから発表する内容をまとめ、発表用資料をつくる。
- 発表のお手本となる動画を視聴し、相手に伝わる話し方のポイントを見付け、チェックリストとしてまとめる。
- チェックリストに沿って、相手に伝わる話し方のポイントを意識しながら発表の練習をし、その様子を撮影する。
- 発表の様子を撮影した動画を視聴し、相手に伝わる話し方ができているかチェックリストに沿って確認する。その結果をクラスで集約し、クラスに共通する課題とその克服方法を明らかにする。その後、グループに分かれ、改善点の克服に向けて最後の発表の練習をする。
- 発表会の様子撮影した動画を視聴し、相手に伝わる話し方ができるようになったかどうかについて、チェックリストに沿って確認し、単元全体の学習成果をまとめる。

■指導上の工夫とICTの利活用

①チェックリストに沿って、動画を見返すように声かけをする。

* 前時の発表の練習を動画で記録しておき、いつでも振り返り、学習成果を確認できるように、端末に保存しておく。

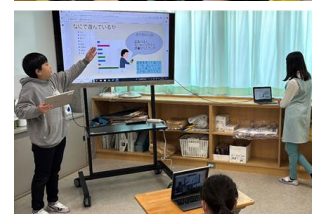
②相手に伝わる話し方のポイントについて、個人ごとの実現状況を集計し可視化することで、クラス共通の課題があることを示し、改善するにはどのように練習すればよいかをクラスみんなで考えられるようにする。

* 個人の振り返りの結果を即時に集計して可視化し、クラス全体で課題を共有することを可能にしている。

③教師は、発表の練習を撮影した動画を見返しているグループをまわり、そのグループで伝えたいことは何かを問いかけ確認する。

* 伝えたいことは何かを意識して、チェックリストに沿って動画を振り返ることができるようにしている。

【活用したソフトや機能】
オクリンクプラス
(選択肢集計 クラウド活用)



■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（7時間目）

【学習活動の場面】

相手に伝わる話し方のポイントをまとめたチェックリストに従い、練習の様子の動画を振り返り、上手にできていた項目を一人一人でチェックする。その結果をクラス全体で協議し、クラスに共通する課題とその克服方法を見だし、改善につなげていく。

【子供の「深い学び」の姿】

①相手に伝わる話し方のポイントをまとめたチェックリストに従い、練習の様子の動画を振り返り、上手にできていた項目を一人一人でチェックした。
Aは、「大事なところははっきり大きく」ができていなかった。

②チェックリストの集計結果をクラス全体で共有し、それぞれの児童が抱えている課題がクラス共通の課題であることを理解し、クラス全体で課題の克服方法を考えた。

A「自分と同じところがみんなもできていないんだね。」

T「クラス全体の課題となっている“大事なところははっきり大きく”を上手にするには、どのように練習に取り組めばよいですか。」

A「ただ聞き取りやすい声でハキハキと発表するだけでは、何が伝えたいことなのかが伝わらないんだね。」

B「どこが伝えたいのかを考えて、話し方の工夫をしないとイケないね。」

③このことを意識して発表の練習を行い、その練習の動画を繰り返し見て、改善されているかグループで確認し合った。

A「伝えたいことは、アンケート結果の“休み時間に遊んでいる物”だよ。」

B「だったら一番多いのは“ボール”だから、発表する前に間を空けよう。」

A「アンケート結果の資料を見せる時、間を取った方が、何の話かなって注目してくれるし、伝えたいことが何なのか、聞く人にはっきり伝わるよね。」

【当該指導での「深い学び」】

一人一人の練習の状況を共有したことで、同じ課題を抱えている人が多いことが分かり、どのように練習に取り組めばよいかについてみんなで考えることができた。その結果、相手に伝わる話し方のポイントは、話す速さや声の大きさといった技術的なことだけではなく、話す内容に即して工夫することが大事であるということに気付き、練習に取り組む視点を見いだすことができた。

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第2章 第1節 国語

第2〔第3学年及び第4学年〕 2 内容

〔思考力，判断力，表現力等〕 A 話すこと・聞くこと（1）ウ

話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。
出典：小学校学習指導要領P33

〔思考力，判断力，表現力等〕 A 話すこと・聞くこと（1）ウ

言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫することは，話の中心や話す場面を意識して話す際の話し方として示しているものである。例えば，話の中心的な部分において自分の感じたことを強く伝えるために，抑揚を意識して話したり，多人数の聞き手に伝えたいことを伝えるために，声を張って話したりするなど，話の中心や話す場面を意識して話し方を工夫することが重要である。